

中島 大輔さん

植物アーティスト



水の中で生き生きと育つ観葉植物やサボテンが緑と根が一体となってインテリアを彩っている。せせらぎまでが聞こえそうな作品をデザインしたのが中島大輔さんだ。土を使わず水だけで育てる植物ブランド「WOOTANG（ウータン）」を立ち上げ、「水で育てる小さな森」をテーマにした新しい植物の楽しみ方を提案している。

野菜の水耕栽培をヒントに約100種の植物を水だけで育つか実験を繰り返した。1年から2年かけ、適応する品種や水に映えるデザイン性などを考慮し20種ほど選定した。「根が水に浸っている姿を透明で飾り気のない容器で表現したので、植物が持つそれぞれの個性をまんぷんに楽しんでほしい」と語る。開発のきっかけは自身が仕

インテリアデザイン

水に伸びる根 みずみずしく



土なしで育むインテリア多彩



事の疲れを植物で癒やした経験だ。「休養を求め盆栽園に足しげく通ううちに魅力にはまった」と苦笑する。樹木の根の一部が土の上に出ている「根上がり盆栽」の根の生命力に心を動かされた。もっと多くの人に盆栽の魅力を伝えたいと、盆栽にアート性を高めることを試みた。20歳のときタイを訪れた際に木の根で覆われた仏頭と出会った衝撃が蘇った。根上り盆栽と仏像の顔を組み合わせた「仏像盆栽」を国内外で展示すると、ユニークだと見る者を引き付けた。

緑をインテリアに取り入れたいが「水やりの手間が面倒」「虫がつくのが嫌」などの理由であきらめる人が少なくないことを知り、水栽培でこれ

「植物にアートとデザインを融合させ、今までにない植物の見せ方に力を注ぎたい」と意欲的だ。

(ライター 菊地純子)

なかしま・たいすけ 1977年群馬県生まれ。青山学院大学卒業後、テレビ番組制作会社などのマスメディアに16年ほど携わる。多忙な生活に植物が癒やしになることを実感し、30歳になると盆栽を学び始めた。会社を辞め、植物の世界に身を投じている。2020年に水だけで育てる植物ブランド「WOOTANG」を設立した。

らの課題を解決できると開発に踏み切った。2020年の発売当初、奇しくも新型コロナウイルスウィルス禍と重なった。在宅時間が増え、観葉植物に癒やしを求める人の心をつかんだようだ。「ウータン」の売り上げの一部を水と森の保全活動に寄付し、購入者とともに水の大切さを考え、持続可能な未来を目指したいと考えている。